

JS研修業務 運営座談会

【出席者】

- 山田 助義 (元) 東京都・日本下水道事業団研修部助教授
 片柳 栄 (元) 栃木県佐野市市民生活部長
 土屋 誠 (元) 埼玉県新座市上下水道部長
 石山 哲 (元) 山形県米沢市上下水道部下水道課長
 船倉 宏 (元) 広島県廿日市市建設部技術管理監
 渡邊 良彦 日本下水道事業団研修センター特任教授

【座 長】

- 辻田 威夫 日本下水道事業団研修センター次長 (兼) 研修企画課長

【事務局】

- 岸本 涼一 日本下水道事業団研修センター研修企画課長代理

地方公共団体OB講師が語る、 未来を支える人材の育成とそのやりがい

JSが持続的な下水道事業の発展及び人材育成に引き続き貢献していくためには、地方公共団体OBなど、豊富な知識や経験を持つ研修講師の持続的確保が不可欠であるため、このたび「研修講師登録制度」を創設しました。

今回は地方公共団体を退職された後もJS研修で講師としてご活躍いただいている皆さんに、講師としてのやりがいや求められる講師像などを伝えていただくことで、全国の皆様に研修講師に対して関心を持つてもらえたらと座談会を企画しました。

現役時代の 下水道事業への関わり

辻田 司会進行を務めさせて

いただきます次長の辻

田と申します。初めに自

己紹介も兼ねまして、皆

さんの現役時代の下水道

事業への関わりについて

お話を聞かせていただけ

ますでしょうか。

山田 東京都OBの山田と

申します。私は東京都下

水道局に入局以来、退職

するまで36年間下水道一

筋で、現役時代は処理場



辻田氏

の維持管理、工事監督、事業計画や施設計画の仕事に携わってまいりました。中でも国庫補助金をもらうために当時の建設省に日参し事業説明をしたことやJS研修部に向いて研修講師をさせていただいたことが私の貴重な経験になっていきます。

片柳 昭和50年4月に佐野市へ入庁し、新設したばかりの下水道課工務係に配属になり、主に管路の工事を担当することにな

りました。昭和56年度には事業団の研修を受講しました。とても有意義な研修でした。昭和62年度からは処理場の増設に携わり、管路とまた違った形で、いい勉強になりました。平成になってからはあちこち異動して、20年ぶりに下水道課長として戻ったのですが、1年でまた別の部署へ異動。その間、平成7年頃には栃木県では当時最大級の3千人規模の農集を担当しました。いろいろやってきましたが、退職が平

成23年3月、東日本大震災の年でした。その退職する年度に渡邊先生からお誘いがあって初めて研修講師を務めました。

土屋

新座市に昭和53年に入庁して、道路河川課に4年、下水道課に8年、また道路河川に戻って6年、その後下水道関連に20年です。下水道関連には通算28年間携わってきました。工事の設計から監督、計画、維持管理、経営面全てに携わって、下水道使用料の改定も二度ほど経験しました。JS研修ですが、研修に行った職員は同じ釜の飯を食べたという経験からかみんな仲がいい。戸田でみんな勉強して自信をつけてさらに経験を積んで一人前になっていく形です。おかげさまで下水道から異動した職員は、他の部署から引く手あまたになっています。

石山

米沢市OBの石山です。私は民間の建設会社10年を経まして、平成2年に米沢市に入り土木課に配属されました。その後、平成10年に下水道課に異動し、管渠の整備工事に6年間携わりました。その年にJS研修・管きょⅡを受講しまして、ここにいる渡邊先生の指導を受け現在もお付き合いをさせていただいています。2度目の下水道は工事・維持管理を5年ほど担当しました。その後いろいろ異動しまして、令和4年の定年退職までの7年間は3度目の下水道課勤務となり、主に下水道整備計画の縮小や企業会計への移行などを行いました。通算しますと18年間、下水道事業に携わることができました。

船倉

廿日市市OBの船倉と申します。私は昭和50

年4月に五日市町という広島市の西隣にあった当時全国で一番人口が多かった町に就職しました。今はもう合併して広島市になっています。私はできたばかりの下水道課へ配属になりました。私は大学では土木だったのですが、下水道の「下」の字も知らない。配属先でも下水道を知らない人ばかりで、みんな素人でした。昭和51年にJS研修の実施設設計初心者コースを受講したときにすごい衝撃を受け、感動しました。このときの研修が私の下水道の基礎になっていると自負しています。広島市に合併した後3年間ほど下水道計画に配属されました。その後下水道の職員がちょうど辞めるので廿日市市に来ないかというお誘いがありました。廿日市市に行ってから処理場研修に参加しましたが、最初

に受けた研修ほどの感動はありませんでした。それぐらい最初に受けた宿泊研修の経験はすごく大事なものになっています。

渡邊

渡邊でございます。

縁あって昭和50年7月1日に事業団の前身・下水道事業センターへ出向することになり、事業団の研修業務に意義を感じて自分を切り替えて事業団プロパーとしてお世話に



山田氏

なっています。今年で通算38年に亘り研修業務に携わっています。現在も講師の皆様や研修生と触れ合えていること、非常にありがたいことだと思っています。また地方公共団体に対して自分の役割を果たし貢献したいという思いから今でも研修業務に関われていることを誇りと期待を持ちながら頑張っております。

JS研修講師の業務とそのやりがい

辻田 ありがとうございます。

今日お集まりの皆さんが現役時代に事業団研修に研修生として参加されたことや山田先生については事業団へ出向されていた時代があり研修講師を担当されていたことをうかがいました。公務員としてさらに数多く

山田

講師を引き受けた

の実務経験を積まれて、地方公共団体OBの講師として現在教壇に立たれています。講師としての経歴や内容、またJS講師のやりがいなどについてお話をいただけますか。



片柳氏

きっかけは、私がJS研修部に出向したときの研修部長だった石川忠男さんが理事長だったときに、地方公共団体のOBを講師として活用していきたいので引き受けてくれないかという話があったので、東京都を卒業した59歳から今79歳ですから20年間にわたって講師を務めています。

講義は実施設計コース管きよ基礎、管きよ設計Ⅰ、管きよ設計Ⅱの流量表作成を担当しています。研修生にいつも言うのは、設計図書の基本はこの流量表だよ。流量表にある面積、管の形状、断面、勾配、地盤高、管底高などの数値が設計

図書の平面図、縦断面図の基になります。下水道の一丁目一番地、イロハのイを教えてください。そこを知っていることが大事だよと口酸っぱくいつも講義の中で言っています。研修生が「なるほど、この数字がこうなっているのか」と理解してもらうこと、研修生へ質問していつて理解度を確かめながら進めていき、みんながよく理解してくれることが講師としての喜びになっています。また、研修センターに来ると若い人に会えてそのエネルギーをもらって帰るといのが講師としてのやりがいの一つになっています。

片柳 講師として最初ここへ来たのが、平成23年です。14年ほど経ちます。最初に渡邊先生から依頼された講義は管きよ



土屋氏

の施工法ということでしたが、どう進めていいのかわからないので渡邊先生や先輩講師の方にもいろいろお聞きしました。

管きよ設計Ⅰ、Ⅱを担当する中で、近年、渡邊先生にお願いして、積算演習の講師を担当することとなり、管路設計についてトータル的に研修生とやり取りできることでやりがいを感じています。また、山田先生が話されたように若い研修生とコミュニケーションがとれることで、より良い体験

になっていると思っています。

講義の最後に研修生にお話することは、基本中の基本が大事です。よ。わからないことがあったら次に行かないで、確実に理解をして次のステップに行つてねと常日頃言っています。それからもう一点、技術屋であれば会計検査を体験してしつかり乗り切つて、それが一人前の証だよ。若いときからそういうつもりでやつてくださいねと話しています。講師と

してJSへ来ていること自体が私にとって大きなやりがいになっています。

土屋

OBとしての講師歴は、平成28年3月に退職してからですから約8年なのですが、実は現役の時も講師をしていました。最初に講師をしたのは昭和60年代だったと思います。管きよⅠの積算演習を何回か、その後は推進工法だと思ふのですが、ディスカッションの講師も務めさせていただきました。OBになって、管きよ設計Ⅰの現場踏査、設計図作成実習、積算演習、それから管きよ設計Ⅱの管渠の施工、補助工法の選択の講師をやつてくださーいと言われたときにどうやってやればいいのかと思つて、実は隣にいる片柳さんの講義を聴講させていただき参考になさせてもらつて自分の講義に活かしました。研修生には、しっか

り説明ができるような根拠を持ちなさいということとを常に講義の締めで言っています。

ディスカッションでは、退職してすぐはよかつたのですが、5年6年と経つてくると経験がない事例も出てきます。ネットで調べても他人の答えしか言えない。やっぱりもつと深く自分で理解してから講義に臨まないと研修生に失礼にあたります。ですから現役の下水道課長や職員に協力していただき、今のトレンドを教わり、それらをどのように実施しているのか、必要性、根拠などを自分で理解し頭の中を整理して、ディスカッションに臨むようにしています。かなり勉強しないと講義やディスカッションに臨めないのが苦労はしていますが、やつたという達成感がすごくあります。研修生が納得

して理解してくれることが本当にやりがいにつながっていると思います。

石山 私は退職する年に渡

邊先生から講師の手伝いをしてくれないかとお話をいただきましたまして、令和4年より講師を務めさせていただきますいています。講義分野につきましては実施設設計コースの管きよ設計Ⅰ、管きよ設計Ⅱ、推進工法で、主に管渠工事の測量・製図・設計積算に関することとデイスカッションなどです。実際に私が経験してきた内容を担当させていただいていますのでやりがいというか頑張っていきたいと思っています。現在、教授の方々や先輩講師の皆様よりご指導いただきながら務めさせていただいていますので、今後、経験を積んで少しずつやりがいを感じていければ

と考えています。自分が経験したことが少しでも他の人の役に立てるのであれば大変ありがたいことだと感じています。

船倉 平成の大合併の頃に

下水道もいろいろ手続が必要なので、講師をしてもらえないかという話をいただきました。廿日市市は一市三町一村が合併したので、県内でも結構早く合併がスムーズにいったものですが、事業団から声がかかりました。当時私が下水道課長をしていましたので、参考になるのであればということで行きだしたのが初めだったと思います。それから以後渡邊先生からいろいろな講師をやってもらえないかというところで、私もJS研修ですごくお世話になった経緯がありますので、全国の下水道職員の一助

になるのであれば頑張りましたよということできを受けてきました。ですから、退職前からこれまでもずっと講師はさせていただいています。担当はデイスカッション、それから実施設計、計画の分野になります。JS研修は下水道全般がわかる最短の道だと考えていますので、ぜひ全国の下水道職員はここにきて学んでもらいたいと思っています。

私を感じるのには、全員がわかれば一番いいのですが、全くわからない人が来ている場合があります。研修生はある程度人選されるのだと思うのですが、設計書を見たことのないという方がいたりします。その辺のところが今後の課題ではないかと感じています。

渡邊 やはり私を含めて、



石山氏

若くありつつも歳は重ねていくわけですね。後継者の育成ということは考えながら常々動くようにしていて、既に山田先生にご指導いただいている内容の一部を船倉先生に引き継ぐということをやっております。

あと大事なのは教材です。私どもが設立当初から独自の教材を作成し改訂を行い、それを基に講義を重ねてきていることが売りですので、講義を行っている中での改定、

意見について常にお声掛けいただきながら、適宜見直しを行い、活きた教材にすることにもここにおられる皆様方にご協力頂いていることに感謝申し上げます。

それと私どもの職員、特に現職は常に二、三年で異動していきます。そういう職員に対する指導とか、ここにおられる方々にその役目を担って頂くべく、ご理解と更なるご支援をお願い致します。

今後求められる 講師像とは

辻田 ありがとうございます。

した。研修生の立場に立って相談に乗ったり、講義内容を見直したりということが必要で、講師自らもその時代に合った講義内容かどうか確認をしながら勉強することが大事だということですね。そういった努力をしている皆さんに講師をしていただいていることで、研修の質が維持できていると改めて感じることもできました。

ます。

山田 下水道の技術は日進月歩です。ただテキストを今までどおり説明すればいいというのではなく、講師そのものも新技術を習得するなり、また

あらゆる情報を収集して研修生に伝えるのも大きな仕事ではないかと思っています。

また、研修生はニュースを知る機会が少ないのではないかと思ひ、私は講義する前に、直近のニュースやその日に起きた過去の出来事などを調べて話をするので、ある程度興味を持たせてまず集中させることが大切だと思っています。ですから今後の講師の方も、日進月歩の新技术を学びながら、そのような話題



船倉氏

を講義の合い間に入れるのも研修生のためになるのではないのでしょうか。

片柳 地方公共団体から講師

師として派遣される際には首長の理解が非常に大切だと思っています。首長が下水道事業に十分後押ししてくれるとなれば自分自身も講師としての気構えができます。OBになってからも、全国の研修生が集まるところで講師をしていることについて後輩に会ったときに、偉ぶるわけではな

く、こういう形で協力しています。自分が佐野市と事業団とのいい意味でのパイプ役になればと思っています。

また、研修生の満足度には常に関心を持っていきます。自治体へ戻って研修へ行つて良かったという評価を拡げてもらえるよう私達は努力をして、満足度を上げていくことが大切かと思ひます。

私は古巣の下水道課へ2ヶ月に1回ぐらい行つて、読み終わった新聞をもらつて、その新聞記事

の切り抜きを、その都度研修生へ渡して、とにかくいろんなことに興味を持ってくださいね、アンテナを常に高くしてねと伝えていきます。

土屋 私は講義の最初に落

語で言うマクラを入れて、今で言えば線状降水帯とか、下水道が災害を受けたときの対応はどんなふうに行っているかなど、そういうことを散りばめながら講義に入り、講義にいろいろアドリブを加えてやるようにしています。

あとディスカッションも課題に関係ないようなことも話したりして。例えば普及率と水洗化率の話。普及率が上がるだけでは収入が増えない。水洗化率が上がることで実入りがあるわけです。いかに水洗化率を100%に近づけるかだと。

ディスカッションの課



渡邊氏

石山 私は講師が実際に経験は自分ではやったことがない内容もあるわけですね。それをいかに事前に勉強し理解できるか、柔軟性がすごく大切です。受けた以上は何とかしたいという考え方ができる講師が望まれると思います。ただ、最初から全てはできないので、いくつかの失敗はJISの方でフォローしていただく、新しい方々もやりやすくなると思います。

石山 後は実践してきたこと、例えば管きよ工事と言えば調査・設計・工事の各段階において失敗したところ、そのときどう対処したか、またはうまくいったこと、どうしてうまくいったかなど、テキストに書いていないような経験談を踏まえて伝えると研修生が実務に戻ったときに役に立つのではないかと思います。あとディスカッションにおいて我々が経験したこと、ことで済む内容と技術が

日進月歩で進んでいるのでOBではなかなか対応が難しいものもあります。OBと現役がセットで講義することで大変役に立つ講義にできるのではないでしょうか。

船倉 講師像というのも非常に難しい問題ですね。例えば今回のパリオリンピック、セーヌ川で泳いで安全なのかというような意識が持てる職員を私は育てたいと思っています。そのためには下水道事業全体の流れを理解していることが大切です。

船倉 初めて講師をする方に対してテキストをもとに自分で講義資料を作ってくださいというのとはなかなか難しいと思うので、そういうところを我々OB講師の経験者が事前に何か作ればいいのかという気がします。やはり講師を増やしていくと

いうことになる、そういうところが大事になると思います。

渡邊 やはり知識だけではダメで、研修生との交流という面では、生活面のケアを含めて小学校の先生みたいな意識を持たないといけないと思っています。

ます。これからは講師育成の研修会等を行っていく必要があるのではないかと考えており、講師の資質を考え、一人一人の人間性や適材適所をいかに見定めるかが重要ではないかと認識しています。

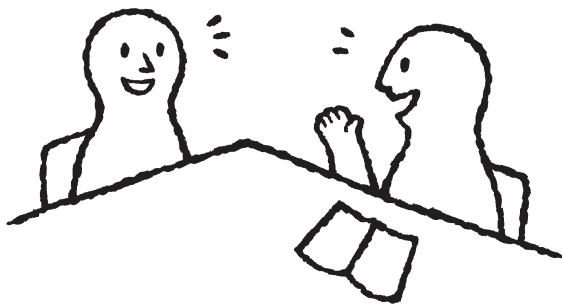
持続的な研修講師確保に向けて

辻田 ありがとうございます。

辻田 ありがとうございます。私も今まで教壇に立つ経験があまりなかったもので、最初はすごく緊張しながらこの講義時間でこの内容を全て喋れるかなと不安を持ちながら教壇に立っていました。が、数をこなしていけば少しずつ余裕が出て、研修生にもわかりやすい説

明ができるようになってきました。

自分がコース担当として運営する際に、初めて講師をする人が来た場合はやはり心配なので、教室の後ろに座らせてもらい、無理な進め方がないか確認しながら、場合によっては休憩時間を入れさせたりして、研修生の



ね。まずは事業団研修が何をしているのかPRが大切で、研修を知ってもらうことで講師希望者が増えることへつながる気がします。

片柳

今回の研修講師登録制度、待っているだけではなかなか登録者の手が挙がるとは思えません。まずはJS研修へ来てくれた研修生が満足して、地元へ帰ったら同僚や先輩にも行つてこいという流れが作れるか、そこが原点だと思います。そういう若い人のやり取りができるようになれば、現役講師としてOB講師としてJSに協力していきましょうという人が出てくるのではないのでしょうか。私たちOB講師もそのつなぎ役になればと思います。

さて、地方公共団体を退職された方、これから退職予定の後輩の皆さんを研修講師へ導くためのご意見についてお聞かせください。

山田

昔は現役職員が講師でたくさん来ていましたが、今は自治体職員が減っていますので、現役の講師派遣が難しくなっているのは事実ですよ

土屋

新座市からも現役職員をできるだけ講師とし

て出したいということ、渡邊先生と相談して実際に幹部と調整し講師として参加できるように体制が整いました。現役で講師を体験することは、本人にもよい経験になると思います。

やはり現役時代から講師をした方をOB講師のターゲットにして登録していただくのがいいのではないのでしょうか。退職して時間があれば、おそらく受けてくれる方がいると思います。

石山

事業団の研修もいろいろなコースがありますので、多くの自治体とのつながりを持つておく必要があるのでないかと思っています。私も渡邊先生とお付き合ひさせていただき、今現在こうやって講師をしていますので、現役講師からOB講師へと継続してお願ひできる各団体との環境作り、人

との繋がりが大変重要ではないかと思っています。

船倉

公務員を定年退職して、辞めてせいせいしたっていう方も結構いると思います。そういう方にくら講師をお願いしても無理な話で、やはり人によって意欲とか性格とか、向き不向きがありますよね。現実的にはJS研修に來た研修生の中から、コース担当の先生がある程度唾をつけて、この子はいけそうかな、将来頼むねとか、そういうことからやられたらどうかなと思います。

私は先ほど渡邊先生が言われた講師向け研修が非常に有効だと思います。特に講師初心者には絶対必要だと思います。後ろで講義を聞くだけでもいいので。一回見れば随分わかりますからそういうことにも取り組んでいただければ、講師

をやりやすいような環境が作れるのではないかと思います。

渡邊

私の経験からもやはり人と人とのつながりが大切で、研修生から現役講師、そしてOB講師へと幅広い視野に立つて活用していきたいと思っております。

いろんなご意見はあると思いますが、研修講師登録制度について皆様方のお力添えをいただきながら、一人でも多く登録いただけるようご協力いただければありがたいと思っております。

辻田

研修講師登録制度ですが、皆さんのお話のとおり、履歴書のような資料だけで審査するのは難しいと思っています。実際のところは、現役時代に講師をしていた方、OBになつてからもやっていたかどうか

持続性のある制度にした
いと考えています。我々
JSもこういう制度を
作って、OBの方々にも
下水道界の技術継承に
ずっと携わっていただく
場をまず打ち出したとい
う段階です。たぶん実際
の流れは渡邊先生のお話
のとおり人を見ながら、
声掛けをしていくという
ことがやはり重要で、そ
のためには研修センタ
ーのコース担当が日頃から
現役講師の方を見てこの
人はOBになってからも
講師をお願いしたいとい
う人をどのくらい見つけ
られるかにかかっている
のかもしれない。

また、事業団の研修自
体の魅力をしつかりPR
して、なるべく研修生を
広くたくさん派遣しても
らう努力を引き続き地道
にやるのがいずれ講師
となる候補生確保の方策
だとも思っています。

石山 私が管理職になった

ときに、それまで削られ
ていた事業団研修へ行く
予算について確保するよ
うにと言って増やしまし
た。十数万円の受講料で、
役所が何百万、何千万円
損しないですむような技
術者を育成できるのです
から。人材育成が何より
も大事だと常に職場で話
をしていました。

山田 我々も講師を探して

来いと言われれば、お手
伝いさせてもらいます
よ。このメンバーのみな
なで。後輩たちに、こう
いう登録制度があるので
是非申し込むようにと。
推薦しても面接があるか
らしつかり勉強しなきゃ
ダメだよと言っておきま
す。

辻田 今回の座談会では、

これまで地方公共団体O
Bとして長きにわたって

人材育成に注力いただい
ている講師の皆様からい
ろいろなお話を聞かせて
いただきました。皆さん
の生の声を情報発信する
ことで、研修講師という
仕事の魅力が全国に伝え
られるのではないかと
思っています。いただい
たご意見については今後
の我々の研修センター業
務や研修講師登録制度に
大いに役立てさせていた
だきます。それでは今後
とも引き続きJSの研修
事業についてご理解とご
協力をよろしくお願いい
たします。本日はありが
とうございました。



【左から】 後列：土屋・船倉・石山・岸本 前列：片柳・渡邊・豆谷・辻田・山田